

学習・言語心理学

《履修上の留意事項》公認心理師資格取得を希望する者は、2年次以降、学習・言語心理学 も受講すること。
 全ての講義を通して座席を指定する。
 毎回、講義の内容に関連したグループワークを実施する。

《担当者名》上河邊 力

【概要】

学習心理学は、行動や認知の学習プロセスを科学的に理解することを目的とした科目である。本授業では、古典的条件付け、オペラント条件付け、洞察学習といった公認心理師試験出題基準に記載された理論と応用を取り扱う。本科目は、臨床心理学における介入技法や行動変容の基礎となる理論を提供するものであり、クライアントの行動パターンの理解や心理療法における効果的なアプローチの開発に寄与する。さらに、公認心理師養成課程の一環として、心理支援を行う際の科学的根拠に基づいた方法論を学ぶ重要な科目である。この科目の学習を通じて、臨床現場での課題解決能力の向上が期待される。

【学修目標】

学習心理学の基礎理論と応用を理解するために、主要な学説や研究結果を体系的に理解する。
 行動変容や学習支援の実践に役立つ理論的知識を身につける。
 関連する実験や応用例を学ぶことで、古典的条件付けやオペラント条件付けの基本原則を説明できるようになる。
 学習理論を基にした行動分析の手法を適用できるようになるために、ケーススタディに積極的に取り組む。
 学習の評価方法について学び、グループ活動を通じて実践する。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	学習心理学への導入	シラバスを概観するとともに、ブループリント出題基準との関連を理解する。 学習の定義や学習心理学の歴史的背景を理解する。 キーワード：経験、行動メカニズム、永続的	上河邊 力
2	学習の基礎 - 初期理論と生物学的基盤	学習研究の歴史的な流れを物語として理解する。 「学習とは、脳が物理的に変化すること」というイメージを持つ。 キーワード：心身二元論、連合、可塑性	上河邊 力
3	生得的行動パターンと基本的な学習現象	学習と生得的行動を区別し、日常にあふれる「慣れ」や「過敏さ」を科学の言葉で説明できるようになる。 キーワード：生得的行動、馴化、鋭敏化、二過程理論	上河邊 力
4	古典的条件づけ(1) - 基本原理	パブロフの犬の実験を理解し、日常にあふれる「条件づけ」を専門用語で説明できるようになる。 キーワード：古典的条件づけ、獲得と消去	上河邊 力
5	古典的条件づけ(2) - 刺激関係と応用	「なぜ」ある組み合わせでは学習が起き、別の組み合わせでは起きないのか、その原理を説明できるようになる。 キーワード：ブロッキング、高次条件づけ	上河邊 力
6	古典的条件づけ(3) - 理論と発展的話題	学習における「予測」の重要性を理解し、学習が生物学的な制約や身近な健康問題にどう関わるかを説明できるようになる。 キーワード：随伴性、レスコーラ=ワグナー・モデル、準備性、条件補償反応	上河邊 力
7	オペラント条件づけ(1) - 基本原理	古典的条件づけとの違いを明確に理解し、自発的な行動が「結果」によってどう変わるのか、その基本法則を説明できるようになる。 キーワード：効果の法則、シェイピング、三項随伴性	上河邊 力
8	オペラント条件づけ(2) - 強化スケジュール	4つの基本強化スケジュールを区別し、なぜ「たまたま」のご褒美が強力なのか、その謎を説明できるようになる。	上河邊 力

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
		る。 キーワード：部分強化効果、複合スケジュール、マッチング法則	
9	オペラント条件づけ(3) - 逃避・回避学習と罰	「逃げる」と「避ける」の心理学を理解し、なぜ不安が維持されるのか説明できるようになる。 「罰」の正しい使い方と、その危険な副作用を理解し、罰以外の方法を提案できるようになる。 キーワード：負の強化、学習性無力感	上河邊 力
10	オペラント条件づけ(4) -理論と応用行動分析	「何が強化子になるのか」を予測する理論(プレマックの原理など)を理解する。 応用行動分析(ABA)の基本的な考え方、特に「機能分析」の重要性を説明できるようになる。 キーワード：強化子、ABA、分化強化	上河邊 力
11	刺激性制御、般化、弁別、概念形成	弁別刺激(SD)とS (エス・デルタ)の役割を理解する。 「般化」と「弁別」が、我々の適応にどう関わるかを説明できる。 「概念」という高度な認知能力が、学習によってどう形成されるかを説明できる。 キーワード：刺激性制御、般化、弁別、刺激等価性	上河邊 力
12	比較認知(1)	比較認知研究の基本姿勢(擬人化の排除)を理解する。 動物の記憶を測定する実験パラダイム(DMTS, 放射状迷路)を説明できる。 動物が持つ「符号化戦略」「メタ記憶」「エピソード様記憶」といった高度な認知機能について知る。 キーワード：比較認知、記憶	上河邊 力
13	比較認知(2)	動物の「数処理能力」の段階(相対的判断から真の計数まで)を理解する。 「道具使用」に見られる因果推論の能力について説明できる。 動物言語研究の歴史と現状(特に文法理解の限界と可能性)を知る。 キーワード：数、道具使用、言語	上河邊 力
14	社会的学習と運動技能の学習	観察学習の4過程(注意、保持、再生、動機づけ)を理解する。 運動技能学習におけるフィードバック(KR/KP)と練習法(分散/集中)の効果を説明できる。 キーワード：模倣、観察学習、フィードバック	上河邊 力
15	選択行動、統合、そして臨床心理学への応用	「なぜ誘惑に負けるのか」を遅延割引の観点から説明できる。 不安や不適応行動を、複数の学習原理を用いて多角的に分析できる。 キーワード：自己制御、遅延割引、認知行動療法	上河邊 力

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部(研究科)、学環、学校の授業実施方針による

【アクティブ・ラーニング】

導入している

【評価方法】

・定期試験100%

(ただし、常識的な態度で受講し、期末試験受験資格を満たす場合に限る)

【教科書】

C. メイザー(著), 村上 宣寛(監訳)『メイザーの学習と行動 第3版』二瓶社

オリジナルの配布資料をGoogle Classroomで配布する

【参考書】

澤 幸祐『私たちは学習している 行動と環境の統一的理解に向けて』ちとせプレス
中島 定彦『学習と言語の心理学』昭和堂
ドムヤン, M. (著), 漆原宏次・坂野雄二 (監訳) 『学習と行動の原理 [原著第7版] 』北大路書房

【備考】

各学生がすべての講義に出席することを前提に講義を進める。講義に欠席した場合、各自の責任において、その講義で配布された資料の有無を確認し、次の講義までに適切な対応を取ること。また、欠席回数については各自で責任をもって管理すること(欠席回数についての問い合わせには原則応じない)。

- ・ Google Classroomを通じて学習課題を提示する。
- ・ Google Classroomを利用したオンデマンド型授業を行う。
- ・ Google forms等を通じて学生からの質問、意見を収集し、次回の授業で紹介する。

【学修の準備】

各回のシラバスを参考に、配布資料と教科書の関連ページに事前に目を通し予習する(2 時間)。
次回講義までに、前回の講義で用いた資料について、参考書などで内容を補完したうえで重要項目を中心に暗記する(2 時間)。

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針) との関連】

DP3 心理学の基礎やそれらを応用発展させた心理科学と周辺諸科学に関する知識・技術を習得している。
DP4 公認心理師の活動に関連する知識・技術を習得している。
上記、心理科学部ディプロマ・ポリシーに適合している。

【実務経験】

公認心理師、臨床心理士

【実務経験を活かした教育内容】

医療機関(精神科、小児科) や教育機関(小・中学校) における公認心理師としての実務経験を通して得た知識・技術・態度等を活用し、実践的な教育を行う。

【その他】

この科目は主要授業科目に設定している